

#S10 ガイナン篇 -T.C. 4767-

勝負とは――――
ただ勝てばよい、というものではない。
戦術目的を達成したところで、
戦略上の利と合致しなければ、意味はない――――
対費用効果にみあわない勝利も、また論外だ。
逆を言えば――――
戦略目的や対費用効果を満たすためならば、
戦術的撤退は、決して負けではない。
そんなことを考えながら、私は今日も戦っている。
――――ごく私的な戦場で。

#S10 ガイナン篇 -T.C. 4767-

シェリィ： ガイナン様――例の惑星消滅に関する資料、お持ちいたしました。
ガイナン： ありがとう、そこに置いておいてくれ。
――――ん？ たしか、その件はメリィに頼んでおいたはずだが。
シェリィ： ええ、その通りですわ。
ただあの子にも、労働者の当然の権利などと、主張をしてみたくなる時があるみたいでして。
ガイナン： なるほど――――当然の権利だ。
シェリィ： 明日からは、デュランダルで調査に向かうことになります。一日くらいはよろしいかと。
ガイナン： 妹の心配もよいが、君もたまには休んだ方がよいのではないか？
シェリィ： ありがとうございます。でも、ご心配はいりません。

こう見えましても、まめに働いているようで、こっそり息を抜く手段には長けておりますの。

ガイナン： ふむ——見習いたいものだな。

シェリイ： そういえば先ほどからモニターをにらんでらっしゃるかと思えば——お仕事ではないようですね。

ガイナン： まあ、そういうことだ。横からのぞいてくれても、別にかまわないよ。

シェリイ： ——では、お言葉に甘えさせていただきます。

—————

これは、古代武器コレクションのU.M.N.オークションですわね。——ちび様への贈り物ですか？

ガイナン： 教育には飴と鞭が必要だからな。厳しくするだけでは、保護者失格だろう？

シェリイ： （まあ——どう見ても、鞭1回に飴3個といったバランスに見えますけど）

ガイナン： いま落札すれば、君たちやJr.が調査に出かけているうちに、品物が届くだろう。

むろん、君たちにもなにか、ボーナスを考えておくよ。

シェリイ： ふふふ——ありがとうございます。

それにしても、ずいぶんご熱心ですのね。

ガイナン： ああ、競争相手が頑固でね。なかなか降りてくれないのさ。

いま、奴の過去履歴から、入札のクセを読み取ろうと思っている。

シェリイ： そんなことも おわかりになるのですか？

ガイナン： わかるさ——たとえば、彼はいつも、オークションが始まるとすぐに入札している。

——タイミングを測るような周到さは持ち合わせていないということだな。

かなりせっかちな性格らしい。

そして、入札金額は常に、その時点での最高金額をわずかに上回るだけ。

シェリイ： なるほど——細かい金銭感覚の持ち主ということですね。

ガイナン： もっと直截的な表現を使ってもかまわないぞ。どうせ相手はU.M.N.の向こう側だ。

シェリイ： ではガイナン様、なぜこのケチ野郎に、思い知らせてやらないのです？

ガイナン様が自由にできる金額を一気に入札してしまえば、すぐに片がつくと思いますのに。

ガイナン： そんな場を荒らすことはできない。

これから先、私の履歴を見た競争相手全員に、駆け引きも知らぬ無駄金遣いと思われてしまうしね。

シェリイ： （こんなことで時間を費やすことの方が、無駄ではないのかしら——？）

ガイナン： オークションの醍醐味は、経営と同じさ。

ライバルの情報を集め、分析し、最低限の資金で勝利する。

むろん、ただ勝てばいいというものじゃない。

採算にあわないと思えば、撤退する引き際も肝心だ。

その採算を見極めるために、相場の読みも欠かせない。

シェリイ： —————

ガイナン： その顔——あきれているな？

シェリイ： いえ、そのようなことは——

ガイナン： いや、いいんだ。我ながら子供じみた強弁だとわかってはいるよ。

ただ、まあ――これは趣味でもある。大目に見てくれないか。

シェリイ： わかりました。

それでは、オークション終了時刻まで他のお仕事はお耳にいけないようにいたします。

存分に張り合ってくださいませ。

ガイナン： ありがとう、そうさせてもらうよ。

シェリイ： では、失礼いたします。

ガイナン： さて――残り時間もわずかだ。どう出てくるかな。

おや、もう最高入札額が更新されている――やるじゃないか。

なら、こちらは3割増しで入札するでしょう。

過去の履歴から見る限り、君は8割方、これで撤退するはずだ。

――――――

む、まだ食い下がってくるとはな。どうも、彼にとっても、このPMは重要な品らしい。

（どうする――あとわずかで、こちらが予定した予算を超えてしまう――――

それ以上の金額を入札するのは簡単だが、相場をいたずらに上げてしまうのはばかられる）

――――――

よし、予算上限を入札してみよう。後は相手の出方次第だ。

なに、もう入札してきた？

どうする――普段の私なら、ここで引いているところだ。

だが、ここで降りてしまうのも面白くない履歴を残すことになる。

よし――――

さあ、これでどう――――む？

もう更新された？

――――

――――――

――――――――

私が今後もオークションを続けるとして――

幾多の競争相手が、私の入札履歴を検証することだろう。

私と張り合っても勝ち目はない――未来の競争相手たちにそう思わせることで、

今後のオークションが楽になるなら、ここでの無理も長い目で見れば、収支は黒になるはずだ。

――――――

さあ、これでどうだ――――

（もう入札してくるなよ――

お前にも、予算の上限があるはずだ――

こっちはまだまだ資金力はあるんだぞ――
あと一分――
そう、それでいい――
いい子だ――)
――――！

『現時刻をもちまして、当オークションを終了いたします。
おめでとうございます。当オークションは、あなたに落札されました。
今後のお取引につきましては――』

ガイナン：ふう―――犠牲の多い勝利だった。

――――

（シェリィにチェックされる前に、この履歴――改竄できないものかな）

――

メリィ：あちゃあ、負けてしもた～～。

せっかく、ちび様へのプレゼントにするつもりだったのに――

それにしても、ほんまムカつくわあ。

ムキになってバンバン入札してきはりおって。

きっと、どこかの金持ちのボンボンやな。

こういう奴に持たせておくのは、金のムダや、ムダ。落札されたPMも泣いてるで――

あ～あ、ほんまムカつくわあ――

こうして私は――

ごく私的な戦場においても、勝利を収めた。

そうそう、

先ほど言い忘れていたことがひとつある。

私的な戦場においては、戦略目的や対費用効果と同じ――

いや、それ以上に

重要かもしれない、評価要素が存在する。

それは――――
個人的満足心、だ。